【樹木の部屋】

ベニバナトチノキ (トチノキ科トチノキ属 Aesculus x carnea)

和名:ベニバナトチノキ 別名:ベニバナマロニエ 英名: Red Horse-chestnut

ムクロジ目 落葉性・高木 原産地:

花言葉:博愛、贅沢 花の色:紅色





← 写真-1 ベニバナトチノキの樹姿

撮影日:2016年06月02日

影場所:エトルタ(フランス)にて

撮影者:M さん

↘ 写真-2 ベニバナトチノキの枝

撮影日:2016年06月02日

撮影場所:エトルタ(フランス)にて

撮影者:M さん



← 写真-3 ベニバナトチノキの花

撮影日:2016年06月02日

撮影場所:エトルタ(フランス)にて

撮影者:M さん



← 写真-4 ベニバナトチノキの堅果

撮影日:2016年06月02日

撮影場所:エトルタ(フランス)にて

撮影者:M さん

最初に見かけたのは、ボルドー(フランス)の市街散策中でした。樹木はトチノキ(セイョウトチノキ)ですが、紅い花。ベニバナトチノキです。ガイドさん曰く、「日本では見られないのでは?」。「少なくとも小生は初めて」と、返答。トチノキの花は「白」とばかり・・。

ボルドーで見かけた三日後、フランス西部の都市、エトルタを訪れた際、駐車場に植えられていました。ここにも・・と思い、カメラに納めました。勿論、ボルドーでも一枚だけですがカメラに・・。

日本やイギリスでは、目にしたのは白だけでしたが、ここフランスでは、まだ、 白は目にしていません。ベニバナトチノキは北米南部原産のアカバナトチノキ とヨーロッパ原産のセイヨウトチノキ(マロニエ)の交雑種で、ドイツで作出さ れたとされているそうです。日本には大正末頃に渡来し、マロニエよりも普及し ており、よく栽培されている樹木だそうです。ということは、日本でも見ること ができる植物ですが・・。

くちょっと一言>

多くの方が「マロニエって、トチノキですよね・・。」と言われているのを、耳にしますが・・。本来、マロニエとトチノキは異なる樹木。どちらもトチノキ科トチノキ属ですが、マロニエ=セイヨウトチノキで、トチノキの近縁種。その外観上の違いは・・。

トチノキの葉には鋸歯(ギザギザ)が無く、セイョウトチノキには有る。トチノキの実には刺がなく、セイョウトチノキの実には刺があるので見分けられると思います。